

育児ソーシャル・サポートの構造¹⁾

原 口 雅 浩²⁾
手 島 聖 子³⁾

要 約

本研究では、4カ月児と1歳6カ月児の養育者の育児不安の横断的・縦断的調査を行ない、育児ソーシャル・サポート尺度の項目選択を行なうとともに、4カ月児の養育者と1歳6カ月児の養育者の育児ソーシャル・サポートの構造について、多母集団同時分析を用いて検討した。その結果、育児ソーシャル・サポート尺度は、「精神的サポート」、「育児ヘルプ」、「居場所作り」の3因子9項目で構成され、各因子が表している概念が、4カ月児と1歳6カ月児の養育者で同一であることが示された。さらに、4カ月児と1歳6カ月児の養育者の育児ソーシャル・サポートは、居場所作りと育児ヘルプおよび居場所作りと精神的サポートの共分散が等しく、育児ヘルプと精神的サポートの分散が等しいというモデルの適合が良いことが分かった。

キーワード：育児ソーシャル・サポート、共分散構造分析、多母集団同時分析

問 題

厚生労働省の平成16年国民生活基礎調査（厚生労働省、2005）によれば、平成16年6月10日現在における我が国の世帯総数は4632万3千世帯となっている。世帯構造別にみると、「夫婦と未婚の子のみの世帯」が1512万5千世帯（全世帯の32.7%）で最も多く、次いで「単独世帯」1081万7千世帯（同23.4%）、「夫婦のみの世帯」1016万1千世帯（同21.9%）の順となっている。

核家族で育児をしている養育者が増えた現在、養育者（主に母親）は、親族・近隣・友人等から孤立した状況に陥りやすく、誰からも援助を受けることができない場合には、育児の不安や負担が増幅し、最悪の場合、虐待にまで至ってしまうこともある（厚生労働省、2004）。2003年度に児童相談所が処理した養護相談のうち、虐待相談の処理件数は26,569件であり、児童虐

待防止法施行前である1999年度から2倍以上増加している（厚生労働省、2004）。

虐待された子どもを年齢別にみると、0～3歳未満が20.1%、3歳～学齢期児童が27.2%、小学生が36.5%、中学生が11.7%となっており、低年齢児に多い傾向がある（厚生労働省、2004）。日本の乳幼児健康診査のシステムは、国際的にも高い水準にあり、受診率も高いといわれているため、この既存の母子保健システムを有効に活用して、子どもの虐待予防システムを地域に構築するために事業を展開する市町村も出てきた（中板・東條・ほか保健婦一同、2001）。しかし、まだ多くの市町村では、乳幼児を抱える養育者側の不安や葛藤を十分に受けとめた育児への援助は実施できていないのが現状である。

手島・原口（2003）は、先行研究で用いられた尺度（たとえば、川井・庄司・千賀・加藤・中野・恒次、1997；牧野、1982；難波・田中、1999；佐藤・菅原・

1) 本研究は、平成16年度文部科学省科学研究費補助金若手研究（B）（課題番号16790340）（手島聖子）の助成を得て実施された。

2) 久留米大学文学部心理学科

3) 長野県看護大学地域看護学講座

戸田・島・北村, 1994) を参考に, 乳幼児健康診査に携わったことのある保健師や児童虐待の専門家の助言を受け, 養育者が安心して育児ができる環境を構築するために, 初めて出会う保健師であっても, 子どもの発達過程に応じた養育者の育児ストレスや育児不安, 育児ストレスに影響を与える個人的・社会的要因を短時間に把握できる質問紙を作成し, 4カ月児の養育者と1歳6カ月児の養育者を対象に横断的・縦断的調査を行なった。

その結果, 育児不安尺度は, 中核的育児不安, 育児感情, 育児時間の3因子から構成されており, 信頼性(内的整合性)と因子構造の安定性のある尺度であることが示された。育児ソーシャル・サポート尺度は, 精神的サポート, 育児ヘルプ, 居場所作りの3因子, 育児観尺度は, 父親育児参加と母性神話の2因子から構成されており, それぞれの尺度とも, 信頼性(内的整合性)のある尺度であることが示された。育児ストレス尺度は, 4カ月児と1歳6カ月児の行動や態度を幅広く的確にとらえていた。

しかしながら, 手島・原口(2003)では, 4カ月児と1歳6カ月児の養育者のデータを一緒に分析しているため, 両者の因子構造が等しいかどうかや同じ構成概念を表しているかどうかはわからない。さらに, 将来的に, 本尺度を, 乳幼児健康診査でリスクのある養育者のスクリーニングに使用するためには, 養育者の負担を少なくし, 回答をやすくしなければならない。そのためには, 因子構造を保ったままで, 信頼性を損なわない程度に項目数をできるだけ少なくする必要がある。

そこで, 手島・原口(2004)は, 手島・原口(2003)と同じ育児ストレス質問紙を用いて, 横断的・縦断的調査をおこない, 育児不安尺度項目の選択を行なうとともに, 4カ月児の養育者と1歳6カ月児の養育者の育児不安の構造について, 多母集団同時分析を用いて検討した。また, 原口・手島(2005)は, 育児ストレス尺度の項目選択を行なうとともに, 4カ月児の養育者と1歳6カ月児の養育者の育児ストレスの構造について, 主成分分析を用いて検討した。その結果, 育児不安尺度は, 4カ月児および1歳6カ月児の養育者ともに, 同じ因子構造をもつ3因子9項目が選択され, 育児ストレス尺度は, 4カ月児では8項目, 1歳6カ月児では10項目が選択された。

本研究では, 手島・原口(2004)と同じ多母集団同時分析の手法を用いて, 育児ソーシャル・サポート尺度項目の選択を行なうとともに, 4カ月児の養育者と

1歳6カ月児の養育者の育児ソーシャル・サポートの構造について, どの部分が等しく, どの部分が異なっているかを検討することを目的とする。

方 法

調査対象と手続き

A町の乳幼児健康診査で対象となった乳幼児の養育者に対して, 調査票を事前に郵送し, 健康診査に養育者が来所された際に個別に回収した。4カ月児健康診査の対象者は, 2004年が90名(回収数79名), 2003年が83名(回収数78名), 1歳6カ月児健康診査の対象者は, 2004年が88名(回収数73名), 2003年が92名(回収数84名)であった。

育児ソーシャル・サポート尺度

養育者の育児環境について尋ねる20項目からなる。回答はあてはまる程度を, 「全くあてはまらない」から「非常にあてはまる」までの4段階で評定させた。

子育て家庭に対するサポート体制として, これからの育児環境には, 「居場所作り」, 「育児ヘルプ」, 「精神的サポート」の3つの課題があると考えた(手島・原口, 2003)。

第1の「居場所作り」とは, 子どもの場合は, 子どもが安心して遊ぶことができる場所, 特に歩いて行くことができる公園などが身近にあることであり, 養育者の場合は, 安心して子育てについて話し合える人や場所があることである。第2の「育児ヘルプ」は, 専門家によるサポートとして, 育児についていつでも相談できる場所があることや育児に関する情報提供などが挙げられる。また, 育児代替の共助的サポートとして, 育児は夫に手助けしてもらって行なうものではなく, 夫婦の共同作業として営まれることが重要である。第3の「精神的サポート」は, 夫からのサポートとして, 夫婦で子どもの様子について話し合える関係や心配事を相談できる関係があることが, 多くの養育者である妻にとってのサポート源となる。

厚生労働省では, 虐待の「予防」も意図して, 「つどいの広場」(子育て中の親子が気軽に集い, 相談・交流できる場)や「育児支援家庭訪問事業」(出産後間もない時期や, 養育が困難になっている家庭を訪問し, 育児・家事の援助や相談に応じる事業)等の拡充を図っている。

調査実施にあたっての倫理上の注意

調査対象者に対し, 調査への協力依頼文書の中で,

この調査は、A町役場健康課の協力を得て、乳幼児を養育されている方々への育児支援を目的とする旨を記載した。さらに、調査は匿名で行い、回答結果はコンピュータ処理するので、個人の回答が外部に知られることはなく、結果は学術的な目的以外に使用しないことを記載した。

分析方法

育児ソーシャル・サポートの探索的因子分析には、Windows版SASシステムVer.9を、ステップワイズ式因子分析には、SEFA2002⁴⁾を、多母集団同時分析にはAMOS Ver.5.0を用いた。

結果と考察

(1) 対象者の属性

調査対象者の主な属性を表1に示す。今回、調査対象者としたA町の養育者の全体像は、手島・原口(2003)と同じく、「30歳前後の夫婦で、夫が勤め、妻は専業主婦、2歳以下の子どもが一人あるいは二人の核家族」と解釈できた。

(2) 探索的因子分析

4カ月児および1歳6カ月児の養育者の育児ソーシャル・サポート尺度に対して最小自乗解、プロマックス回転による因子分析を行った。その結果、4カ月児および1歳6カ月児とも、固有値の落差や因子に含まれる項目数、項目内容などを考慮して、3因子(累積説明率、4カ月児:46.5%、1歳6カ月児:46.0%)が抽出された(表2、表3)。4カ月児第1因子、1歳6カ月児第2因子は、「その日の子どもの様子を夫婦で話し合うことができる」、「子どもの心配事があるときに夫(妻)に相談できる」など妻の育児における精神的安定に関する項目の負荷量が高いことから、「精神的サポート」因子と名づけた。4カ月児第1因子、1歳6カ月児第2因子は、「同じ年くらいの子ともと遊ばせる機会がない」、「同じ年くらいの子ともをもつ母親と話す機会がない」などの妻の家庭以外での居場所作りに関する項目の負荷量が高いことから、「居場所作り」因子と名づけた。4カ月児と1歳6カ月児の第3因子は、「子どもの心配事があるときに相談できる人がいる」、「歯医者や美容院などに行きたいとき、預かってくれる人がいる」などの育児代替の共助的サ

表1 対象者の属性

属性	2000年		2003年		2004年	
	4カ月	1歳6カ月	4カ月	1歳6カ月	4カ月	1歳6カ月
夫の年齢	-24	6	3	6	4	4
	25-29	30	20	32	21	22
	30-34	35	26	20	29	28
	35-	23	15	21	25	18
妻の年齢	-24	8	6	16	9	6
	25-29	38	26	28	24	31
	30-34	34	26	27	32	29
	35-	15	9	6	19	9
子どもの数	1人	47	39	48	39	41
	2人	33	24	30	45	29
	3人	14	3	8	18	7
	4人以上	1	1	1	4	2
夫の職業	サラリーマン	71	47	56	59	53
	教員	3	2	1	3	2
	公務員	5	3	3	4	4
	自営業	6	7	8	9	9
	その他	8	5	5	5	9
	未就業	0	0	1	2	0
妻の職業	専業主婦	70	49	67	65	59
	フルタイム	2	9	2	6	2
	パートタイム	1	6	0	9	3
	育児休業	16	1	6	2	13
	その他	3	2	3	1	1

不明は除いている

4) URL : <http://koko15.hus.osaka-u.ac.jp/sefa/>

表2 4カ月児の養育者の育児ソーシャル・サポート尺度の因子分析表（最小自乗解，プロマックス回転）

項目	居場所 作り	精神的 サポート	育児 ヘルプ	共通性
同じ年くらいの子どもをもつ母親と話す機会がない	0.834	0.053	0.029	0.672
同世代の子どもを持つ家族とのつきあいがいい	0.822	-0.009	0.002	0.676
同じ年くらいの子どもと遊ばせる機会がない	0.812	0.025	0.051	0.629
子育てのことを継続的に話せる機会がない	0.370	-0.228	-0.258	0.383
子どもを預けたり預かたりする子育ての仲間が身近にいる	-0.402	0.002	0.169	0.239
その日の子ども様子を夫婦で話し合うことができる	0.022	0.825	-0.005	0.675
子どもの心配事があるときに夫(妻)に相談できる	0.053	0.755	-0.033	0.549
夫は妻をよく理解してくれている	0.044	0.715	-0.025	0.495
夫は妻の代わりに育児や家事ができる	-0.071	0.489	-0.038	0.240
私一人で子どもを育てている	0.028	-0.332	-0.066	0.133
子どもの心配事があるときに相談できる人がいる	-0.017	0.077	0.811	0.715
歯医者や美容院などに行きたいとき、預かってくれる人がいる	0.039	-0.052	0.718	0.476
短時間でも預かってくれる人が近くにいる	0.044	-0.206	0.684	0.402
子育てをするなかで感じたことを安心して話すことができる人がいる	-0.074	0.164	0.614	0.511
育児の仕方を相談できる人(例えば医師・保健婦などの専門家)がいる	-0.102	0.106	0.328	0.178
(他の因子の影響を排除した)説明分散	2.060	2.020	1.771	6.974
説明率	13.7	13.5	11.8	46.5
(他の因子の影響を無視した)説明分散	2.785	2.567	2.893	6.974
説明率	18.6	17.1	19.3	46.5

表3 1歳6カ月児の養育者の育児ソーシャル・サポート尺度の因子分析表（最小自乗解，プロマックス回転）

項目	精神的 サポート	居場所 作り	育児 ヘルプ	共通性
その日の子ども様子を夫婦で話し合うことができる	0.809	0.075	0.087	0.694
子どもの心配事があるときに夫(妻)に相談できる	0.795	-0.020	0.072	0.682
夫は妻をよく理解してくれている	0.787	0.067	-0.149	0.560
夫は妻の代わりに育児や家事ができる	0.514	-0.052	-0.162	0.237
私一人で子どもを育てている	-0.469	-0.005	-0.077	0.250
同じ年くらいの子どもをもつ母親と話す機会がない	0.058	0.872	0.028	0.733
同じ年くらいの子どもと遊ばせる機会がない	0.050	0.766	-0.018	0.590
同世代の子どもを持つ家族とのつきあいがいい	-0.089	0.759	0.147	0.529
子育てのことを継続的に話せる機会がない	-0.039	0.462	-0.198	0.335
子どもを預けたり預かたりする子育ての仲間が身近にいる	-0.104	-0.388	0.093	0.181
短時間でも預かってくれる人が近くにいる	-0.213	0.073	0.669	0.369
歯医者や美容院などに行きたいとき、預かってくれる人がいる	0.067	0.072	0.639	0.409
子どもの心配事があるときに相談できる人がいる	0.156	-0.172	0.637	0.617
育児の仕方を相談できる人(例えば医師・保健婦などの専門家)がいる	-0.083	-0.021	0.555	0.293
子育てをするなかで感じたことを安心して話すことができる人がいる	0.211	-0.236	0.416	0.421
(他の因子の影響を排除した)説明分散	2.255	2.042	1.445	6.900
説明率	15.0	13.6	9.6	46.0
(他の因子の影響を無視した)説明分散	2.792	2.810	2.603	6.900
説明率	18.6	18.7	17.4	46.0

ポートに関する項目の負荷量が高いことから、「育児ヘルプ」因子と名づけた。

Cronbachの α 係数を算出して信頼性(内的整合性)を検討した結果、精神的サポート(5項目)は $\alpha = .750$ (4カ月児)と $\alpha = .789$ (1歳6カ月児)、居場所

作り(5項目)は $\alpha = .806$ (4カ月児)と $\alpha = .800$ (1歳6カ月児)、育児ヘルプ(5項目)は、 $\alpha = .756$ (4カ月児)と $\alpha = .733$ (1歳6カ月児)といずれも高い信頼性が認められた。各因子に負荷量の高い項目は、2000年の調査における育児不安尺度の因子分析の結果

(手島・原口, 2003) とまったく同じであった。

養育者の年齢, 子どもの数, 核家族率や職業などの属性がほぼ同じであった2000年, 2003年, 2004年の調査において, 育児ソーシャル・サポート尺度の因子構造は同じであり, 各下位尺度の内的整合性も高かった。これらの結果から, 本研究で用いた尺度が高い信頼性(内的整合性)と因子構造の安定性を有しており, 子どもの発達過程に応じて, 育児への援助を必要としている養育者を早期に把握することに有用であることが示唆された。

(3) ステップワイズ式探索的因子分析

将来的に, 本尺度を, 乳幼児健康診査でリスクのある養育者をスクリーニングするために使用するのであれば, 養育者の負担を少なくし, 回答をしやすくしなければならない。そのためには, 因子構造を保ったままで, 信頼性を損なわない程度に項目数をできるだけ少なくする必要がある。

そこで, 4カ月児の養育者と1歳6カ月児の養育者の育児ソーシャル・サポート尺度を別個に, Kano and Harada (2000) によるステップワイズ式探索的因子分析(SEFA)を行ない, 項目選択を行なった。その結果, 4カ月児および1歳6カ月児とも, 「居場所作り」(3項目), 「育児ヘルプ」(3項目), 「精神的サポート」(3項目)の3因子(9項目)が採択された(4カ月児: $\chi^2_{(12)}=5.362$, $p=0.944$; GFI=0.991; RMSEA=0.000; 1歳6カ月児: $\chi^2_{(12)}=7.879$, $p=0.792$; GFI=0.987, RMSEA=0.000)。

(4) 多母集団同時分析

4カ月児と1歳6カ月児の養育者の育児ソーシャル・サポート尺度に対して別個に因子分析を行なった結果,

適合度指標が良い値だったので, 配置不変モデル(両群に対してまったく同じパスを引くモデル)を解析した。配置不変モデルの適合度は, GFI=0.971, RMSEA=0.000, $\chi^2_{(48)}=43.5$ ($p=0.657$) で適合は良かった。したがって, 母集団同士が, 少なくとも同じパスの引き方ができるほど似通っていることが保証された。

そこで, 次に測定不変モデル(群間で, 各因子から各測定変数へのパス係数同士がすべて等しいモデル)の解析に移った。測定不変モデルの適合度は, GFI=0.953, RMSEA=0.031, $\chi^2_{(57)}=73.4$ ($p=0.07$) であり適合は良かった。したがって, 各因子が表している概念は同一であることが示された。

測定不変も満たされたので, 因子のバラツキ(個人差)について母集団間で差があるか, 因子同士の相関について母集団同士で差があるか, 因子の測定精度について母集団間で差があるかを検討するために, 因子の分散共分散や測定変数の誤差分散に制約をおいて, 解析を進めた。その結果, 「測定不変+居場所作りと育児ヘルプおよび居場所作りと精神的サポートの共分散が等しい+育児ヘルプと精神的サポートの分散が等しい」というモデルの適合が良かった($\chi^2_{(54)}=50.0$, $p=0.629$; GFI=0.967; RMSEA=0.000)。

因子得点の平均について母集団間で差があるかを検討するため, 平均・共分散構造分析を行なった結果, 上記のモデルに平均構造を導入したモデルもデータによく当てはまっていた($\chi^2_{(65)}=68.3$, $p=0.366$; CFI=0.997; RMSEA=0.013; AIC=154.3)。

図1は最終的に選択されたモデルを示している。因子パターンは, 標準解のとき, x1からx9まで4カ月児では0.486~0.967, 1歳6カ月児では0.505~0.955と, それぞれの構成概念をよく測定していた。因子の分散

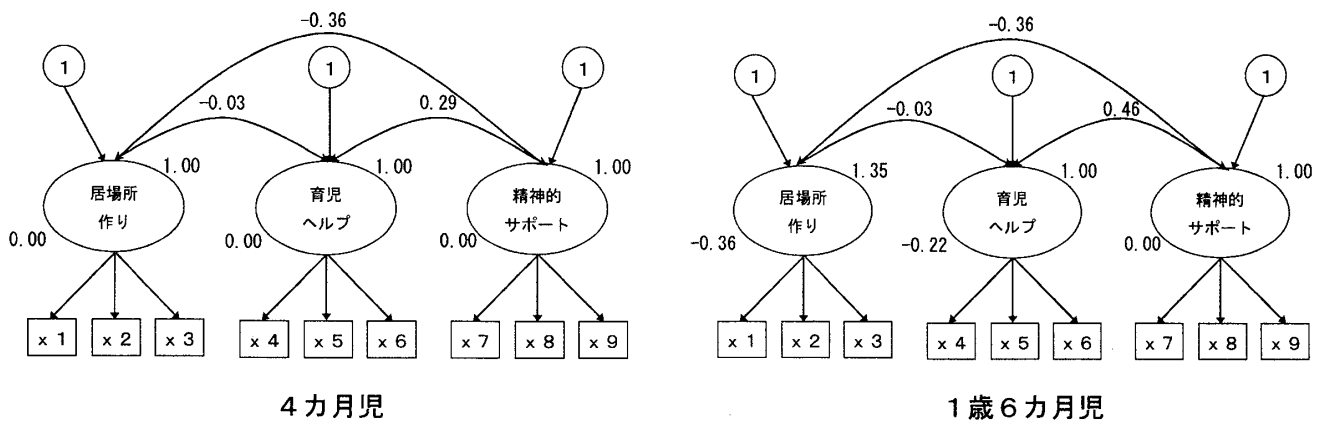


図1 育児ソーシャル・サポート尺度の多母集団同時分析

は、4カ月児を1.00とすると、「居場所作り」では1歳6カ月児で1.35であり、1歳6カ月児の養育者のバラツキ（個人差）が大きいことがわかった。「育児ヘルプ」と「精神的サポート」の相関は、4カ月児で0.29、1歳6カ月児で0.46であり、1歳6カ月児は4カ月児に比べて、両者の関係が強いことが示された。

さらに、因子平均は、3つの因子とも4カ月児の養育者を0とすると、1歳6カ月児の養育者の「居場所作り」の因子平均が-0.36、「育児ヘルプ」の因子平均が-0.22となった。したがって、1歳6カ月児の養育者の方が「居場所作り」（逆転項目）の機会が多く、「育児ヘルプ」が少ないと解釈できる。

まとめ

本研究は、4カ月児と1歳6カ月児の養育者の育児ソーシャル・サポートの横断的・縦断的調査を行ない、育児ソーシャル・サポート尺度の項目選択を行なうとともに、4カ月児の養育者と1歳6カ月児の養育者の育児ソーシャル・サポートの構造について、多母集団同時分析を用いて検討したものである。その結果、現時点での分析で、以下の5つのことが確認された。

- (1) 育児ソーシャル・サポートは、「居場所作り」、「育児ヘルプ」、「精神的サポート」の3つの因子で構成されている。
- (2) 配置不変モデル、測定不変モデルともにデータの当てはまりがよく、4カ月児と1歳6カ月児の養育者の育児ソーシャル・サポートの3つの因子は、同じ構成概念を表している。
- (3) 1歳6カ月児の養育者の「居場所作り」のバラツキ（個人差）が、4カ月児の養育者より大きい。
- (4) 1歳6カ月児の養育者は4カ月児の養育者に比べて、「育児ヘルプ」と「精神的サポート」の関係が強い。
- (5) 1歳6カ月児の養育者の方が4カ月児の養育者に比べて、「居場所作り」（逆転項目）の機会が多く、「育児ヘルプ」が少ない。

本分析とこれまでの一連の分析（原口・手島、2005；手島・原口、2004）の結果、育児ストレス尺度（手島・原口、2003）は、信頼性（内的整合性）と因子構造の

安定性を損なうことなく、育児不安3下位尺度9項目、育児ソーシャル・サポート尺度3下位尺度9項目、育児ストレス尺度8項目（4カ月児用）と10項目（1歳6カ月児用）に短縮された。

引用文献

- 原口雅浩・手島聖子 2005 育児ストレスの構造 久留米大学文学部心理学科・大学院心理学研究科紀要, 4, 43-51.
- Kano, Y. & Harada, A. 2000 Stepwise variable selection in factor analysis. *Psychometrika*, 65, 7-22.
- 川井 尚・庄司順一・千賀悠子・加藤博仁・中野恵美子・恒次欽也 1997 育児不安に関する臨床的研究Ⅲ—育児困難感のアセスメント作成の試み— 日本総合愛育研究所紀要, 33, 35-56.
- 厚生労働省 2005 平成16年国民生活基礎調査 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa04/1-1.html>
- 厚生労働省 2004 平成15年度社会福祉行政報告例 http://www.dbtk.mhlw.go.jp/toukei/data/370/2003/toukeihyou/0004805/t0102564/HOUH0015_001.html
- 牧野カツコ 1982 乳幼児を持つ母親の生活と<育児不安> 家庭教育研究所紀要, 3, 34-56.
- 中板育美・東條敏子・ほか保健婦一同 2001 児童虐待を予防するためのスクリーニング・システム 保健婦雑誌, 57, 1036-1043.
- 難波茂美・田中宏二 1999 サポートと対人葛藤が育児期の母親のストレス反応に及ぼす影響—出産直後と3ヵ月後の追跡調査— 健康心理学研究, 12, 37-47.
- 佐藤達哉・菅原ますみ・戸田まり・島 悟・北村俊則 1994 育児に関するストレスとその抑うつ重症度との関連 心理学研究, 64, 409-416.
- 手島聖子・原口雅浩 2003 乳幼児健康診査を通じた育児支援—育児ストレス尺度の開発— 福岡県立大学看護学部紀要, 1, 15-27.
- 手島聖子・原口雅浩 2004 育児不安の構造 久留米大学文学部心理学科・大学院心理学研究科紀要, 3, 83-88.

Structure of Childcare Social Support

MASAHIRO HARAGUCHI (*Department of Psychology, Faculty of Literature, Kurume University*)

SEIKO TESHIMA (*Department of Community Health Nursing, Nagano College of Nursing*)

Summary

This study investigated the structure of childcare social support experienced by parents of 4-month-old and 18-month-old children. Data were collected through the use of a questionnaire at the time of infant health checkups and subsequently studied using a multi-group simultaneous analysis. The result of the study indicated that childcare social support consists of three factors: place and group making, childcare help and mental support. According to the findings, each of the three childcare social support factors seen in the parents of 4-month-old children and 18-month-old-children showed the same construct. The following is a proposed model illustrating the structure of childcare social support experienced by parents with infants: (1) The covariance between place and group making and childcare help, place and group making and mental support is equal, (2) The variance between childcare help and mental support is equal but the variance of place and group making is greater in case of parents with 4-month-old children.

Key words: childcare social support, covariance structure analysis, multi-group simultaneous analysis

資料

育児ソーシャル・サポート尺度項目

居場所作り

- x 1 : 同じ年くらいの子どもをもつ母親と話す機会がない
- x 2 : 同世代の子どもを持つ家族とのつきあいがいい
- x 3 : 同じ年くらいの子どもと遊ばせる機会がない

育児ヘルプ

- x 4 : 子どもの心配事があるときに相談できる人がいる
- x 5 : 子育てをするなかで感じたことを安心して話すことができる人がいる
- x 6 : 歯医者や美容院などに行きたいとき、預かってくれる人がいる

精神的サポート

- x 7 : その日の子どもの様子を夫婦で話し合うことができる
- x 8 : 子どもの心配事があるときに夫（妻）に相談できる
- x 9 : 夫は妻をよく理解してくれている